

ばら色の未来

(原文)

中山 美空 (15 歳)

長野県

佐久長聖高等学校

こんにちは、15 歳の私。2020 年のあなたは新型コロナウイルス感染症（以下コロナ）の流行で、いつ終わるか分からない自粛生活や自分や家族、友達がコロナに罹るのではないかという不安の中で、毎日を過ごしていましたね。

安心してください。もう少し時間はかかりますが、コロナは収束します。世界中が力を合わせて終わらせるのです。コロナという共通の敵を前にして、いがみ合っていた人達や競争や戦争ばかりしていた国々がそれがいかに愚かなことなのかに気がつきました。強い国がお金と力を使って、一時的にコロナを封じ込めても、貧しくて薬や治療を受けることの出来ない国から再び流行が起きてしまい、世界を平等にして全世界で根絶しなくてはこの戦いに勝利は無いという結論に達しました。

そして 2030 年の今、世界には国を超えた機関があります。世界のどこかで新たな病気が発生したり、大災害が起きても、その機関からすぐに医師や薬、専門家が派遣され、必要な物資が届き、最善の手を尽くします。食料は全世界に平等に配られ、貧困などの格差は無くなりました。助けを必要の人達を専門のスタッフがサポートし、自立を見守っています。誰もが自分の考えを提案することが出来ます。私もその機関で働く一員です。

中学 1 年生で起立性調節障害になったあなたは 1、2 年生と学校に遅刻や欠席ばかりの日々を過ごしていました。特に午前中は体調が悪くて起き上がれず、友達ともうまくいけなくなり、楽しみは土曜日の夕方に通っていた英会話だけでした。外国人講師達の明るい笑顔はあなたのことにも笑顔にしました。彼らと交わす英会話は、あなたを元気にする魔法の呪文でした。あなたは英語を勉強することが大好きになりました。

もう一つあなたに大きな影響を与えたのは、中学 3 年生で行った広島への修学旅行でした。修学旅行前に戦争や原子爆弾について学びましたが、実際に被爆された人のお話は想像を絶するものでした。そしてあなたは「もう戦争はないのに、いじめや暴力や差別が絶えないのが悲しい」と語られた言葉に、被爆と言うつらい経験をした人が見知らぬ人達を思いやり、幸せを願う姿にとっても感銘を受けました。

2020 年のコロナの世界的な流行の時に何十万という人が亡くなったことで、世界中にこの人と同じように考える人が多く現れ、声をあげました。人々の善意が国を動かし、国境の無い世界を作り上

げたのです。2030年の今、世界の人達は笑っています。優しい気持ちで溢れています。あなたや世界の人達がこれまで経験した悲しい出来事はすべて糧となり、今の明るい世界を彩る源になっています。

かつて不登校を経験した私は今、心に傷を負っている子供たちに寄り添う仕事をしています。色々な国の子供たちが様々な理由で傷つき、ここで少しずつ心を癒していっています。一緒にいることで彼らが心を開いてくれるようになり、笑顔を私に向けてくれるようになった時、私はこの上ない幸せを感じるのです。私が彼らからパワーをもらっているのです。

修学旅行の時、広島平和記念公園で「夕焼け」という歌を合唱しましたね。広島市民の人達が聞きに集まって下さり、合唱を聞いて涙して下さる人もいました。夕焼けの歌詞の中に「夕焼けはばら色 世界が平和にならどこの国から見ても どこの町からみても 夕焼けはばら色」という一節があります。

降り続く雨や吹き荒れる風もいつかは止みます。そして空はばら色の夕焼けに覆われます。止まない雨はないのです。今がどんなに苦しくても未来を信じ、前向きに生きてください。どんな経験も未来につながります。私たちの未来がずっとばら色でありますように。